

## 学際的研究推進部会（グループ会議）のご案内

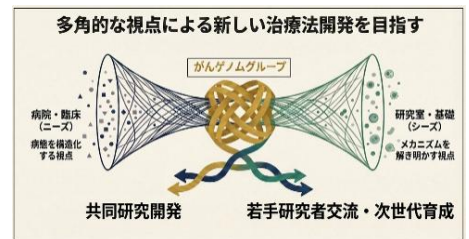
大学院医系科学研究科長 岡村 仁

医系科学研究科では、「多分野融合の利点を活かし、国際化を推進する」との基本方針のもと、教育・研究・国際連携の一体的な発展に取り組んでいます。その中核的な取り組みとして、学際的研究推進部会（グループ会議）を設置しています。本研究科の教授等は、以下に示す「がん・ゲノム医療」「脳・神経科学」「再生・免疫・感染・アレルギー」「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」「発生・発達・成長期医療」の5つの研究グループのいずれか（複数も可）に所属し、分野横断的な融合研究を推進しています。これにより、研究室間の連携強化や共同研究の創出を図り、大型研究資金の獲得や国際的な研究展開につなげています。

## ①がん・ゲノム医療グループ

グループ長（歯学分野 ゲノム口腔腫瘍学 教授） 藤井 万紀子

当グループは、新規治療法開発に直結する共同研究の基盤構築を推進しています。これまでは構成員の研究紹介が中心でしたが、現在は病院のオンコロジーミーティングへの参画を通じて、臨床と基礎研究を繋ぐ革新的な共同研究の創出に注力しています。今後は若手研究者間の交流機会をさらに拡充し、診療科や研究室の垣根を越えた強固な連携を築くことで、がん研究の飛躍的な発展と次世代研究者の育成に寄与することを目指します。



## ②脳・神経科学グループ

グループ長（薬学分野 薬効解析科学 教授） 森岡 徳光

脳・神経科学グループは、中枢神経疾患の病態解明に主に焦点を当てた19の研究室で構成されています。本グループでは、統合生命科学研究所との合同セミナー「広島大学脳神経科学セミナー」を開催し、研究科の垣根を越えた共同研究へと発展させています。また、「Neuro霞 若手の会」も開催し、学生および若手教員による口頭発表の機会を設けています。これらの活動を通じて、各研究室の多様な知見や技術を共有し、分子から個体までを貫く研究を推進しています。



## ③再生・免疫・感染・アレルギーグループ

グループ長（薬学分野 微生物薬品開発学 教授） 黒田 照夫

再生医療、免疫学、感染症、アレルギーといった関連分野の研究者が集まり、分野横断的な知見の共有と活発な議論を目的とした研究グループです。原則として毎月セミナーを開催し、各メンバーが研究成果や進捗を発表することで相互理解を深めるとともに、新たな共同研究の創出や分野融合の促進を目指しています。令和7年度末までにのべ73回のセミナーを実施し、毎回20名程度が参加して活発な議論が行われています。

## ④老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学グループ

グループ長（保健学分野 生体運動・動作解析学 教授） 高橋 真

本グループには2026年4月現在、35名の教員が所属しており、加齢に伴う身体・認知機能の変化を基盤として、生活習慣病の予防・重症化予防、高齢者医療、地域・社会環境を含む健康支援に関する多彩な研究が展開されています。定期的な研究報告会を通じて各分野の知見を共有しており、今後はこの多領域構成を活かした分野横断的な研究連携のあり方を探りながら、健康寿命の延伸と持続可能な地域医療・社会に資するエビデンスの創出につなげていきたいと考えています。

## ⑤発生・発達・成長期医療グループ

グループ長（医学分野 解剖学及び発生生物学 教授） 池上 浩司

発生・発達・成長期医療グループでは、骨や歯の形成、出産や成長、それらの異常や治療・看護に関する研究、またモデル動物や細胞培養モデルを用いた基礎的研究などに従事する関連教室教員が集まり、時に学外の研究者も招いて最先端の研究や技術に関する活発な議論と情報交換を行っています。また、准教授以下の教員で作る「若手ワーキング会議」も組織し、互いの研究紹介や各種外部資金の情報共有を通して、現場レベルでの共同研究体制の構築を活発に行っています。